

日本経済新聞

日曜版

NIKKEI

2021年 4月11日 日
(令和3年)

チャートは語る

世界の金融市場で高リスク資産を膨張している。その一因に既存の金融規制の枠組みの外にある「影の銀行」(シャドーバンク)「がカネをまわり」の中でリスクの高い取引を膨らませていることがある。米投資会社アルケコス・キャピタル・マネジメントとの取引で一部の大手金融機関が多額の損失を出したように、市場環境が変ればこうしたリスクが損失として顕在化する懸念も高まっている。

3月29日、米クルーズ船大手、ロイヤル・カリビアン・クルーズが発行した社債の金利水準に市場の驚きが広がった。2月に米S&Pグローバルが「シングルB」に格下げしたばかりにもかかわらず、利回りが5.5%と昨年5月時点(約11.7%)の約半分になったからだ。

同社のように格付けが投資適格級(トリプルB)に満たない「低格付け債」の発行が急増している。1〜3月の発行額は2083億ドル(約22兆9000億円)と四半期べー

膨れる高リスク資産

スで過去最高だった。市場推計で残高は2兆ドルを上回る。複数の低格付け企業へのローン債権を束ねたローン担保証券(CLO)の発行も目立つ。金融危機の発火点のひとつだったが、発行残高は2020年に6623億ドルと5年でも増えた。

株式市場では、企業買収のみに事業目的とした「空箱」の特別目的買収会社(SPA)の上場数が右肩上がりだ。16年からの累計資金調達額は、21年3月に2179億ドルと半年で2.4倍に増えた。香港などアジアでもSPAC上場解禁を検討する動きが広がる。上場急増に対応し米証券取引委員会(SEC)は8日、「SPACやその買収先について投資家が十分な情報を得られるよう努める」と発表。過熱感から買収に必要な資金が足りなくなり、買収を実現できないケースも増えている。

暗号資産(仮想通貨)への資金流入も著しい。時価総額は4月に2兆を超え、株式の時価総額で世界首位のアップルに迫る勢いだ。

米国の金融規制改革法(ドッド・フランク法)に金融機関の自己勘定取引への規制(ボルカー・ルール)を盛り込むなど、世界の金融当局は金融危機の再来を防ぐべく規制を強化した。

一方、規制の抜け穴として膨張してきたのがアルケコスで注目を集めるファミリー・

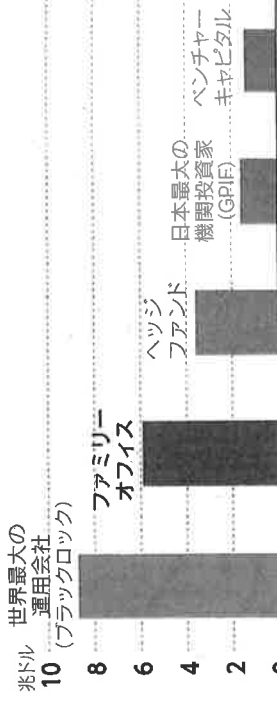
「影の銀行」に緩和マネー

高リスク資産への投資がここへきて一段と膨張している背景には、コロナ危機に伴って主要国の中央銀行が実施してきた大規模な金融緩和がある。

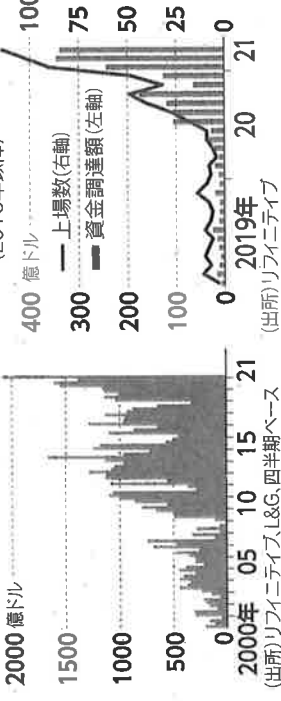
リスク投資の進展で米国では景気回復への期待が高まる一方、米連邦準備理事会(FRB)が緩和政策の継続を明確にしていることがマネーをリスク資産に向かわせている。景気の過熱感が強まり、長期金利が跳ね上がるとなると事態になれば、高リスク資産をめぐる市場環境が一変しない危惧もはらんでいる。

(大西隆平、富田美穂 ニュース1部記者)

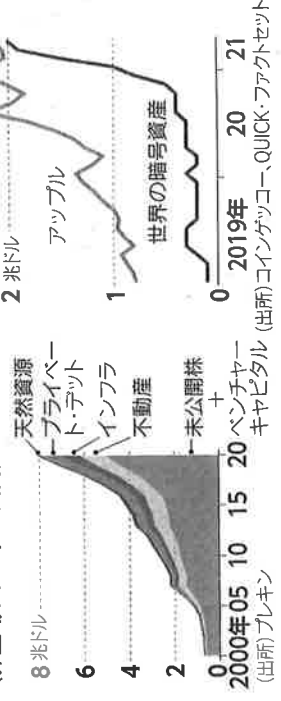
米金融規制外ファミリーオフィスの運用が急膨張



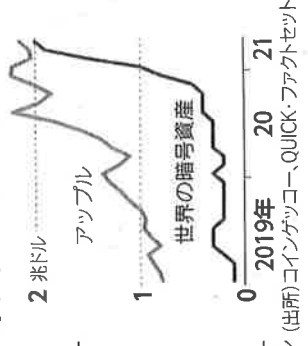
低格付け社債の発行は最高 残高2兆ドル超



低流動性資産の運用は10年で3倍の8兆ドル



暗号資産の時価総額は米アップルに迫る



世界の自動車生産台数は約1000万台で、そのうち約500万台が中国で生産されている。中国は世界の自動車生産の約半分以上を占めている。

世界最大の自動車生産国は中国で、その生産量は約1000万台に達している。

中国

中国の自動車生産量は約1000万台に達している。そのうち約500万台が中国で生産されている。